

神の国は言葉ではなく力にある

(コリントの信徒への手紙 一 4章20節)

清教学園のシンボルであるカリヨンの鐘は、中学40期生、高校21期生の卒業記念として寄贈されたものです。その奏でられる美しい音色は、時を告げ、心を和ませ、「天には栄光、地には平和」と高らかに響いています。



1日に3度、午前8時15分、午後1時、午後5時と、鐘は一人ひとりに語りかけているようです。ある雨上がりの日、午後5時の鐘が下校途中の生徒たちの頭上で鳴り響きました。その中の一人の生徒が「雨上がりの日は、カリヨンの鐘がキラキラと輝いて見えて綺麗だよ」と友達に話しかけ、立ち止まって塔を見上げていました。丘の上にある学園からの下校は下り坂になり、つつい下を向いて歩いてしまいます。上を見上げて輝きを発見するなんて、まるでカリヨンの鐘が語りかけているように思え微笑ましい光景でした。

見上げて輝きを発見するなんて、まるでカリヨンの鐘が語りかけているように思え微笑ましい光景でした。

さて、清教学園の歩みを振り返る時、学校礼拝をどのように守り貫いたかの歴史があります。中学開校当初から、毎朝15分の礼拝が1教室で行なわれました。未広町に新校舎を建設した時も3階の1番眺望の良い1教室を礼拝室にとり、落ち着いた雰囲気の中で高校開校後も中高合同礼拝をささげました。やがて生徒数が合わせて250人になった時、やむなく中高に分かれて、3日ずつ礼拝室を使うこととし、他の3日は教室礼拝の形をとりました。ところが1973年度、高校の入学者数が200人を超えたので、礼拝室を区切って普通教室にせねばならぬ事態となり、それからの合同礼拝は雨の降らぬ日だけ屋上でささげたのでした。屋外の礼拝は実につらく、体育館の建設が急がれました。体育館が出来上がったのが、同年12月で、ここでの週1回の合同礼拝は5年続きましたが、集合解散が大変であったことと、学年ごとの充実した礼拝をということで、350人入れる礼拝室を設けたのが1979年のことでした。その後1984年度、高校の入学者数が505人にもおよぶところとなり、500人規模の生徒たちが一緒に礼拝をささげることのできる場所が必要となって、1985年にホールが建てられました。時が至って1991年に、現在の清教学園のチャペルが与えられ、隣接する塔にカリヨンの鐘が取り付けられました。鐘は、オランダ、プティ&フリッセ社製で、口径72cm、重量265kgの電動スイング式のもので、このスイング式の鐘というものはハンマー式に比べ音が格別に大きいという特徴があります。



今日も丘の上からカリヨンの鐘は、「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という清教学園が大切にしている建学の精神の思いをのせて、国際社会においても平和が築かれるようにと願って鳴り響きます。

(次ページに続く)

創立から現在のチャペル建設に至るまでの礼拝史

年度	備考
1951 1967	A.D. ハール宣教師による働きが実り、清教塾を経て古野町に清教学園中学校を開校する。 当初より毎朝 15 分の礼拝を 1 教室で行う。 入りきらぬ時は廊下に椅子を並べて行う。
1968	未広町に新校舎竣工、移転、高校を開校する。
1969	3 階の一番眺望の良い 1 教室分を礼拝室にとって、中高合同礼拝も落ち着いた雰囲気で行う。
1970	生徒数が合わせて 250 人になり、中高分かれて 3 日ずつ礼拝室を使う。他の 3 日は教室で礼拝を行う。
1971	
1972	
1973	
1974	高校に英語科を開設する。
1975	高校入学者数 200 人を迎え、礼拝室を区切って普通教室にする。
1976	晴天時の合同礼拝は屋外で行う。
1977	第一体育館が竣工される。(1973年12月24日)
1978	週 1 度の中高合同礼拝を第一体育館で行う。
1979	
1980	
1981	第一体育館で 800 人の中高合同礼拝をささげていたが、より充実した礼拝の必要性を願い、350 人収容の礼拝室(現在の中高校長室があるエリア)を設ける。
1982	
1983	
1984	
1985	高校入学者数 505 人を迎え、礼拝室が手狭になり、1 学年を 2 つに分けて礼拝を行う。
1986	
1987	1 学年が同時に集まれる場所がどうしても必要となり、500 人規模の収容ができるホール(現在のリブラリアがある場所)が竣工される。中学は全学年、高校は学年ごとにホールで礼拝を行うようになる。(1985年3月末)
1988	
1989	
1990	
1991	創立 40 周年、清教チャペルの建設に着手する。 9 月、清教チャペルの献堂式が行われる。 1991 年から現在に至るまで、清教チャペルでは、パイプオルガンによる奏楽のもと、中学は全学年、高校は学年ごとに礼拝を行っている。

*キリスト教の信徒にとっての 1 週間は、日曜礼拝を守る 1 日と、祈りを持って仕事を始める残りの日に区分されます。生徒達が卒業した後も、日曜の教会礼拝を大切にすることと、日々の生活を神様の前で始める姿勢に繋がるようにと願います。